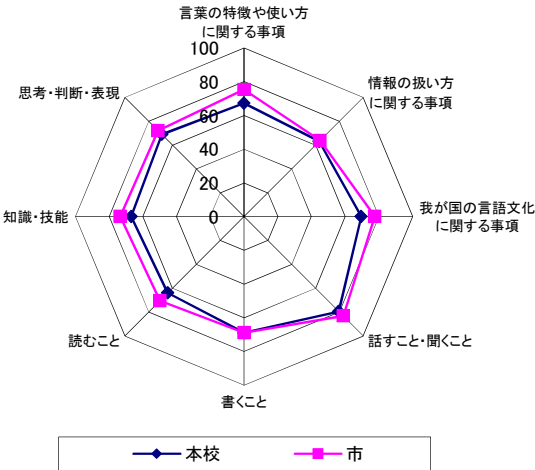


宇都宮市立古里中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.3	75.4	68.3
	情報の扱い方に関する事項	63.1	63.9	58.0
	我が国の言語文化に関する事項	69.6	77.6	69.1
	話すこと・聞くこと	79.5	83.2	81.6
	書くこと	68.8	68.9	58.6
	読むこと	63.9	70.5	65.7
観点別	知識・技能	66.9	73.4	66.2
	思考・判断・表現	69.0	72.2	65.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

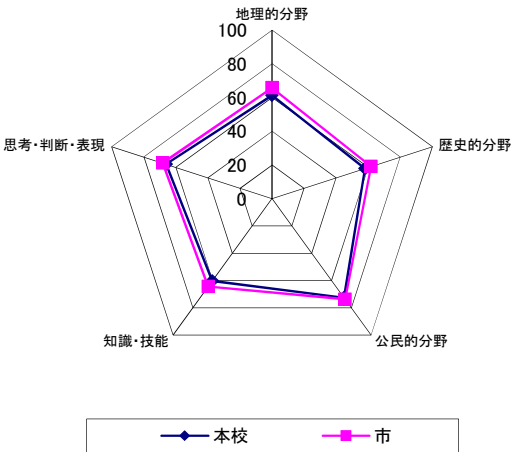
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	●漢字の読みと漢字の書きについては、市の平均を下回っている。 ●用語の活用や敬語についての理解も市の平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、デジタル教科書を利用した小テストを継続して行う。 ・文法事項については、2年生までの既習内容を3年生でも繰り返し学習し、理解の定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	○情報と情報との関係について理解し、文章全体を整える問題に関しては、市の平均を約2.1ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する問題に関しては市の平均を約3.4ポイント下回っている。	・情報を読み取って整理したり関連付ける力に関しては、情報を図式化して整理したり、自分の考えを発表したりする活動を今後は充実させていく。
我が国の言語文化に関する事項	●歴史的仮名遣いについて理解したり、現代語訳を手掛かりに古典を読む問題では、市の平均を下回っている。 ●行書の特徴について理解する問題についても、市の平均を下回った。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す方法については、今後も授業の中で力を入れていく。 ・書写の授業においては、デジタル教科書の解説を利用して、理解の定着を図る。
話すこと・聞くこと	○話の展開を予測しながら聞く問題については、市の平均を1.4ポイント上回っている。 ●自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話す問題では、市の平均を8.0ポイント下回っている。	・日常生活であったことや調べたことについてまとめて報告したり、それを元に質問をしたり話しあったりする活動を充実させる。
書くこと	○情報と情報との関係について理解し、文章全体を整える問題、目的や意図に応じた表現で文章全体を整える問題、読み取った内容を明確に書」問題において、市の平均を上回った。 ●自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する問題については、市の平均を3.4ポイント下回っている。	・書くことに関しては、具体例を加えながら説明したり、どのような順序で話を進めると級友にわかってもらえるかなど、生徒が自分の考えを分かりやすく文章を書いたり発表できたりするような指導を充実させていく。
読むこと	●説明的文章については、論理の展開の仕方を捉えるの問題で市の平均を5.7ポイント下回っている。 ●文学的文章については、文章を読んで考えを広げたり深めたりする問題で市の平均を8.9ポイント下回っている。	・文章問題については、文章や問題を正確に読むとともに、作者の論理の展開の仕方を捉えながら読み取る力を確実につけていく必要がある。 ・文学作品を読み味わう中で、自分の感想や考えをまとめたり、級友の発表を聞いて自分の考えを深めたりする活動を引き続き行っていく。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	61.2	65.7	56.7
	歴史的分野	58.0	61.7	54.8
	公民的分野	72.7	73.8	73.3
観点別	知識・技能	60.4	64.5	59.5
	思考・判断・表現	66.0	68.2	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

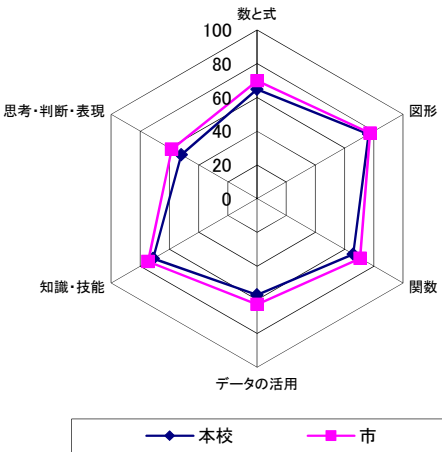
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○日本産業に関する事項は理解度は、市の平均を上回った。 ○日本の地域的特色や諸地域に関する資料読み取りの問題の正答率は、市の平均を上回った。 ●地理的分野全体の正答率は市の平均を4.5ポイント下回っている。 ●緯度経度や世界の大陸海洋に関する問題の正答率は、市の平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎、基本の定着に向けて、一問一答問題などを徹底的に行う。 ・1年生で学習する、世界の姿(緯度経度や世界の大陸海洋など)の基礎知識が定着していない。1年生の学習は中学地理の基盤になっていくので、反復学習を行う。 ・全体的に資料を読み取ったり、資料から考察したりする問題の正答率が低いので、授業の中で資料読み取りの方法や問題演習を多く取り入れる。
歴史的分野	○世界の古代文明に関する事項は、市の平均を上回った。 ○江戸時代の三都の繁栄や海運の発達に関する問題の正答率は市の平均を上回った。 ●市の平均を3.7ポイント下回っている。 ●江戸時代の問題の正答率は平均を下回った。 ●古代までの日本についての問題の正答率は平均を下回った。	・1・2年生で学習した内容の正答率が低いので、授業ごとの振り返りや小テストなどを行い基礎・基本の定着を図る。 ・近世(特に江戸時代)の正答率が全体的に低いので、近世という時代の特徴や近世前後の歴史の流れを意識した授業を行っていく。 ・年代の表し方についての正答率が低いので、継続的に世紀の表し方や時代区分について学習させていく。
公民的分野	○「私たちの生活と現代社会」の分野は市の平均を上回った。 ○憲法改正の手続きについての問題は市の平均を5.1ポイント上回った。 ●市の平均よりも1.1ポイント下回っている。 ●公共の福祉について、資料をもとに表現する問題は市の平均を大きく下回った。	・公共の福祉や新しい人権についての理解が低かったので、授業の中で日常生活と関連させて、自分の言葉で表現させる活動を行う。 ・公民に関係する歴史的事象について答える問題の正答率が低かったので、授業の中で公民だけでなく歴史や地理との関わりを持たせていく。特に人権を獲得してきた歴史に関する資料について、授業の中で資料読み取りや問題演習を多く取り入れる。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	64.9	69.9	66.4
	図形	76.4	77.4	68.1
	関数	65.9	70.6	60.8
	データの活用	57.1	62.7	54.2
観点別	知識・技能	71.1	74.6	70.3
	思考・判断・表現	51.8	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

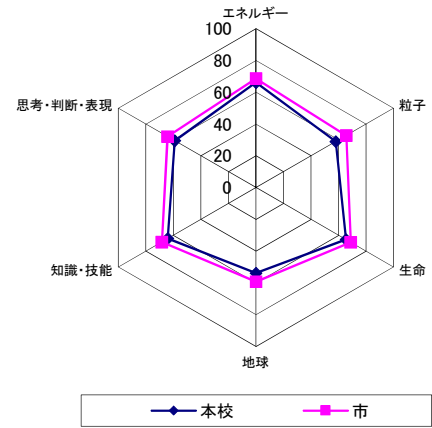
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市の平均よりも5.0ポイント下回っている。 ○正負の数の減法の計算で、市の平均を2.4ポイント上回った。 ● $(x+m)^2=n$ の形の二次方程式を解く問題では、市の平均を11.7ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算を繰り返し練習させて、着実に定着させる。 ・連立方程式や二次方程式などの方程式の解き方を再確認させる。 ・応用の文章題については、パターンが決まっているので、パターンを覚えさせる。 ・1年生の内容からの積み重ねが多いので、家庭学習でのポイントをアドバイスし、反復練習させるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均よりも1.0ポイント下回っている。 ○平面図形で平行移動した距離について理解しているかの問題では、市の平均を1.2ポイント上回った。 ●線分の中点を、垂直二等分線を作図することによって求める問題では、市の平均を6.9ポイント下回った。	・垂直二等分線、角の二等分線、垂線の作図等、基本的な作図の方法を再確認させ、基本的な作図を活用して応用問題を数多く解かせる。 ・おうぎ形の面積を求める問題や直線の位置関係など、基本的な内容を定着させる。
関数	平均正答率は、市の平均よりも4.7ポイント下回っている。 ○比例の関係の、 x と y の値の変化の関係についての問題では、市の平均を5.5ポイント上回った。 ●ある1次関数の x 軸、 y 軸との交点からできる三角形について、面積を求める問題では、市の平均を9.4ポイント下回った。	・関数は特に苦手意識を持つ生徒が多い。比例・反比例、1次関数、2乗に比例する関数について基本的な内容をていねいに復習し、定着を図る。具体的には、式・表・グラフの3つを関連させ理解させる。基本問題の解き方を覚えさせたい。また、グラフからの読み取り等、応用問題についても数多く練習させ、理解させていきたい。
データの活用	平均正答率は、市の平均よりも5.6ポイント下回っている。 ●4枚のカードから2枚取り出して2けたの整数をつくる時の確率の問題では、市の平均を3.1ポイント下回った。 ●四分位範囲の大小を比較する問題や箱ひげ図から判断する問題、度数折れ線から読み取り説明する問題では、市の平均を下回った。	・平均値、中央値、最頻値、度数分布表、四分位数、四分位範囲、箱ひげ図などの用語の意味や基礎的な問題の解き方を確認させる。 ・資料を活用し、考察して説明する力を身に付けさせるために、授業の中での話し合い活動を通して、考える力や説明する力を身につけていきたい。また、データを読み取る練習も行っていきたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	66.1	68.7	63.6
	粒子	58.0	65.7	64.2
	生命	65.5	68.9	64.4
	地球	53.8	59.2	54.3
観点別	知識・技能	64.0	68.4	64.4
	思考・判断・表現	59.0	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

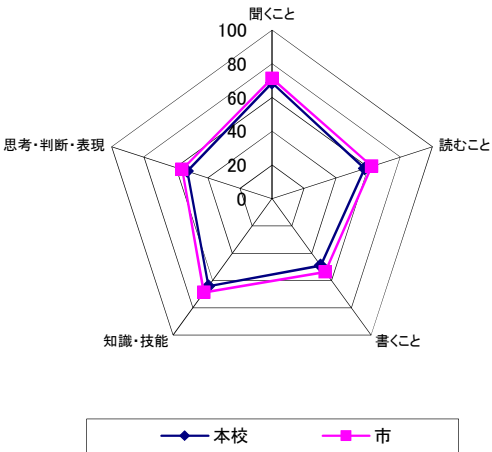
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、他の領域と比べ最も高いが、市平均からは2.6ポイント下回っている。 ○ 音を伝えているものが空気であることを指摘する問題では、正答率が90.4%と高く、単元によっては理解が進んでいることが分かる。容器から空気をぬいていったときのブザーの音の大きさとテープのようすを推測する問題についても、73.1%であった。身に付けた知識を使って考える力が向上していると思われる。 ● テープの長さから、そのテープが記録されたときの台車の平均の速さを求める問題では正答率が50.0%と低く、市平均より12.1ポイント下回っている。論理的思考を伴う計算問題に課題が見られる。磁力線のようすを推測する問題の正答率は65.4%であるが、市平均より6.9ポイント下回っている。3次元的認識に課題が見られる。	○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの ・ 文字からの学習だけでなく、具体物を使っでの学習によって3次元的な認識を深めていきたい。また、習得した知識や収集したデータをもとに、論理的に思考する力を使って課題を解決するために、必要なデータを収集する力、そのデータを使って論理的に考え、結論を導き出して解決していくという活動を行ってきたい。 ・ 学習した知識が日常生活の中で役立っていることを気づかせるために、学習内容が日常生活の中でどう利用されているのかを、知識の習得と同時に紹介していきたい。
粒子	平均正答率は、「地球」に次いで2番目に低く、市平均より7.7ポイントも下回っている。 ○ 水の電気分解によって陰極側に水素が生じたことを確かめる実験を構想する問題の平均正答率が83.7%と高いが、市平均よりは6.4ポイント下回っている。紙テープのはじめの部分を使用しない理由を問う問題の正答率も、76.9ポイントとやや高い。これらの知識は、日頃の実験から身に付けられていると思われる。 ● 液体を加熱するとき、沸騰石を入れる理由を答える問題では、正答率が51.0%とやや低く、市平均を23.1ポイントも下回っている。分解について理解しているかを問う問題の正答率も38.5%とかなり低い。この単元においては、知識の定着が課題である。水を電気分解したときのようすを推測する問題も正答率37.5%とかなり低く、市平均より10.2ポイントも下回っている。身に付けた知識が論理的思考と結びついていないようだ。	・ 理科用語や基本的な知識が、なかなか身に付いていかない。わかる授業を展開していくとともに、小単元テストや授業開始時の簡単な復習などを通して、知識の定着を図る必要がある。 ・ 実験のときの注意点や器具の使い方には、それぞれ意味があることを理解させた上で実験をさせたい。 ・ 学習した知識が日常生活の中で役立っていることを気づかせるために、学習内容が日常生活の中でどう利用されているのかを、知識の習得と同時に紹介していきたい。
生命	平均正答率は、「エネルギー」に次いで65.5%であるが、市平均より3.4ポイント下回っている。 ○ ルーペの使い方や胚の成長の順序を問う問題の平均正答率が、それぞれ83.7%、94.2%と高く、特に後者は、市平均を6.9ポイント上回っている。 ● 対照実験に用いる実験の条件を推測する問題は、正答率が45.2%と低く、市平均より17.1ポイントも下回っている。実験計画に対する課題が見られる。また、卵、精子、体細胞の染色体数について推測する問題の正答率も49.0%とやや低い。科学的な思考力に課題が見られる。	・ 対照実験の考え方をふまえて、実験を行ったり収集した情報をもとに考えたりしていく体験を通して、科学的な思考力を高めていきたい。覚えた用語は、それぞれ関連しており、単一の用語としてではなく関連したグループとして把握していくこと、そしてそれをもとに論理的に考え、自分の考えを人に伝える能力を育成するため、調べたことをもとに自分の考えをまとめ、それをもとにグループで討論しながら課題を解決する活動を行ってきたい。 ・ 学習した知識が日常生活の中で役立っていることを気づかせるために、学習内容が日常生活の中でどう利用されているのかを、知識の習得と同時に紹介していきたい。
地球	平均正答率は、他の領域と比べ最も低く、市平均からも5.4ポイント下回っている。 ○ 火山に関する問題は、比較的正答率が高めである。特に、花こう岩にはなく安山岩だけに見られる特徴を問う問題の平均正答率が72.1%とやや高い。しかし、市平均より下回っている。 ● 前線の断面のようすを問う問題では、正答率が31.7%と最も低く、市平均を9.5ポイント下回っている。また、観測記録と天気図から、観測地点を推測する問題の正答率も47.1%とやや低い。複数のデータを使っでの論理的思考力に課題がある。	・ 地球に関する単元は、各学年の最後に学習することが多いため、知識の定着が他の単元に比べてされにくい。必要な基本的内容については、体験などによる知識定着の工夫を十分に行う必要がある。また、グラフや図などを利用して論理的に思考していくことも大切である。 ・ 学習した知識と日常生活を関連づけさせるために、学習内容が日常生活の中でどう利用されているのかを、知識の習得と同時に紹介していきたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	68.7	71.2	65.4
	読むこと	57.8	62.1	56.9
	書くこと	49.0	53.8	42.5
観点別	知識・技能	64.1	68.8	64.7
	思考・判断・表現	52.9	56.1	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、参考値よりは3. 3ポイント上回ったが、市の平均より2. 5ポイント低い。 ○対話の内容を聞き、その内容を理解して応答する問題の正答率は、市の平均は下回るものの、全国平均と同等あるいは上回るものもあった。 ●情報量が多い英文を聞き、内容や要点を捉える問題では、正答率が低くなっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中で興味をひくような話題を取り上げた対話活動をするなど、生徒が要点を捉えながら英語を聞くことができるようにする。 ・まとまった英文を聞き取って内容を把握することを苦手とする生徒が多いので、対話活動や音声教材では比較的長い英文を聞かせ概要を捉える活動を増やしていく。また、聞き取り問題の解き方のコツについても授業内で触れ、ポイントを抑えて問題に取り組めるようにする。
読むこと	平均正答率は、参考値よりは0. 9ポイント上回るが市の平均より4. 3ポイント低い。 ○対話文の流れと資料の情報・条件をもとに適切な答えや発言を選ぶ問題では、正答率が高くなっている。 ●対話の中で基本的な語形・語法を理解して使う問題は正答率が低く、特に受動態の文を使う問題では市の平均を大きく下回っている。	・長文を読む内容の授業では、英文の内容をいかに効率的に捉えて問いに答えるのかを練習することで、まとまった英文を読むことに慣れさせるとともに、苦手意識を軽減していく。 ・2年生中盤から3年生前半の英文法事項についてはつまづく生徒が多いので、基礎の定着を図るために「復習ミニテスト」を取り入れたりして何度も繰り返し学習させるように工夫する。
書くこと	平均正答率は、参考値よりは6. 5ポイント上回るが市の平均より4. 8ポイント低い。 ○単語の並べ替えの問題の正答率は比較的高く、4問中2問では8割近く取れている。 ●対話の流れに沿った英文を正確に書く問題では、全国正答率や市の平均と同様、極端に正答率が低い。	・学習した文法事項や語彙を活用して場や条件に合う英文を書くことができるよう、さまざまなテーマで英作文を書く演習を多く取り入れていく。 ・英語で書きたいことを正確に書くことができるよう、ALTやクロムブックを有効に活用しながら書く習慣を身に付けさせる。 また、話す活動で使用した言語材料なども、書いて残しておくなどして、自分の身近な英文に慣れさせていく。

宇都宮市立古里中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善	・宇都宮モデルを意識した授業の展開と改善 振り返りの場の設定(すっきり) 指導と評価の一体化(次の学びや生活に生かす)	「学習した内容について、分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」について、3年生は市の平均を下回ったものの、1・2年生は上回った。「宇都宮モデル」の振り返り(すっきり)において、いかに次の学びにつなげていくかの研鑽を今後も積んでいくことが大切である。
	・家庭学習を中心とした自主学習の充実 学習計画表の作成と家庭学習の習慣化(スタディログ「マイスタディ」の活用)	「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」について、3年生は市の平均を下回ったものの、1・2年生は上回った。特に2年生は、今年度スタートした「マイスタディ」を1年間通じて実施したことで、市の平均を大きく上回った。次年度以降も継続していく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

本年度は「主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善」を重点目標に定め、授業における改善点をいくつか絞り込んで相互授業参観を行い研鑽を積んだ。授業の中では「宇都宮モデル」を基本とした「めあての提示」(はっきり)と粘り強く課題に取り組める授業の工夫(じっくり)、さらに振り返りの時間の確保とその生かし方について(すっきり)を軸に、「言語活動の充実」や「ICTの効果的活用」についても考えてきた。各調査の結果から、若干改善が見られた調査内容もあるが、今後も継続が必要なものや、新たに工夫が必要な課題(読書量の低下)も見つかっている。次年度は本年度の取り組みを継承しつつ、課題改善の手立てを講じていく。